

5 「安全安心」の取り組みの運動・施策等の紹介

(1) 青色パトロール車

「青色パトロール車(通称「青パト」)」とは、地方自治体や民間団体が自主的に行う防犯パトロールにおいて使用する青色の回転灯をつけた自動車のことです。

地域犯罪をなくすため、全国的に広まりつつある「青パト」は、犯罪の凶悪化、多様化等により警察活動が捜査に追われ、きめ細かな防犯活動が手薄になっていることから、2004年(平成16年)12月に制度化されました。活動の目的は、「犯罪者を捕まえる」のではなく、「青パト」が地域を巡回することにより、「罪を犯そうとするもの」に対して、「この地域は防犯意識が高くスキが無い。ここでは悪いことはできませんよ。」という、犯罪の抑止が目的です。

「警察パトロール」が幹線道路を主に巡回するのに対し、「青パト」は生活道路が中心で、より効率よく、学校周辺や青少年の集りやすい公園などを中心に、週に1~2回のペースでパトロールしています。

現在、灘区では、防犯協会会員などが所有する7台の「青パト」が、地域の安全を見守るため、巡回しており、今後、更に台数が増えていくことが望まれます。



(2) こども110番「青少年を守る店・守る家・守る車」

全国で「こども110番」の店や家が、130万箇所を突破したといわれています。神戸市では、神戸市青少年育成協議会がいち早く、青少年を健全な環境のもとで育てるまちづくりを目指して、1977年(昭和52年)から「青少年を守る店」の制度を発足させています。

その後、1997年(平成9年)からは、子どもたちが被害者となる事件を未然に防止する観点を加えて、地域の店舗だけでなく、通学路沿いや学校周辺の民家にも協力を募り、「子どもたちが、危険にさらされ、助けを求めてきた場合は緊急避難場所として、一時保護していただき、子どもの保護者や学校・警察などの関係機関へ連絡してください。」とお願いしています。

【主な活動】

- ◎非行の原因となったり、他人に迷惑を与えられる商品は売らない。
- ◎店内が、非行のたまり場等に悪用されないよう配慮。
- ◎いつも青少年に温かい気持ちで接し、青少年に相応しくない行動を見かけた場合は「愛のひと声」をかける。

灘区内には、青少協がお願いしている約600軒の「青少年を守る店・守る家」があります。その他、日頃から、定期的に地域の生活道路を中心に事業活動を展開している、こども110番「青少年を守る車」は、運転中に、子どもたちが事故や何らかの危険にさらされたり、助けを求めてきた場合に、一時保護や関係機関等へ連絡をお願いしており、神戸市全体で約4,500台の車が走行しています。

また、神戸市環境局ではゴミを収集する緑の車に「ひまわり110番」のステッカーを貼って市内を走行し、収集作業中に日常的な地域の見守り活動を行っています。



こども110番ステッカー

【事務局】

- ◎こども110番 ⇒ 神戸市市民参画推進局青少年課
- ◎ひまわり110番 ⇒ 神戸市環境局庶務課

このほか、タクシー協会、クリーニング協会、コンビニチェーンをはじめ、各種業界独自の「こども110番」も取り組まれており、灘区内でも店頭に、いろいろなステッカーを見ることができ、子どもたちにとっては心強い限りです。

【こども110番緊急時対応マニュアル】

1. 防犯ベルの音・子どもの助けを求める声が聞こえた

(1) 呼びかけ

玄関先や、ベランダ、窓から「どうした？大丈夫か」と大声で呼びかけてください。

※あなたのひと声で被害を最小限に食い止める可能性があります。

(2) 保護と通報

可能な範囲で子どもの保護をお願いします。110番通報は積極的にお願いします。

※不審者が凶器を持っている場合もありますので、あなた自身の安全については、十分に注意していただき無理な行動は慎んでください。

2. 子どもが駆け込んできた

(1) 安全の確保

まずは次の3つを実践してください。

①安全の確保

子どもを店内や門内、玄関内に入れ安全を確保してください。